

社会とともに自然の合理性を担保し 時間と空間を超える建物を作る

2017年の
JIA日本建築大賞を受賞した
原田真宏氏、原田麻魚氏の考え方を
その生き立ちとルーツから探る

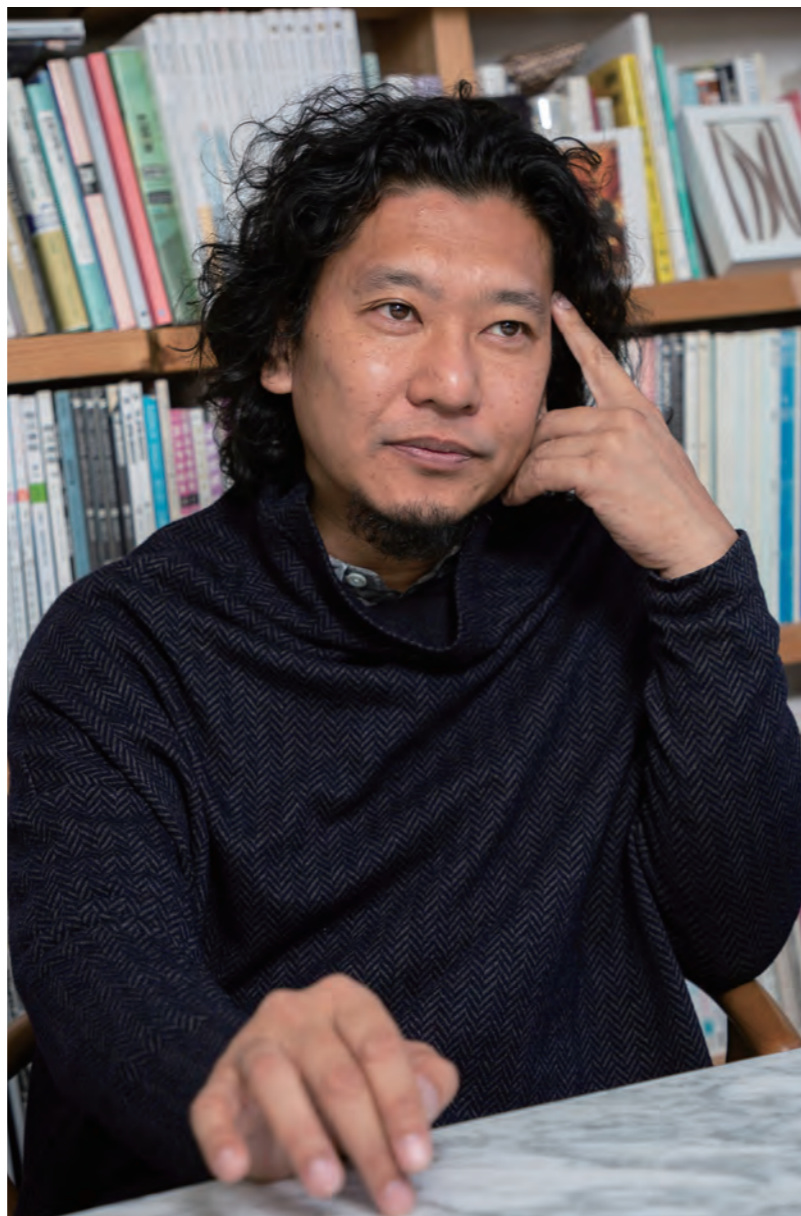
ともに「設計者」だった父親から受けた影響

〔原田真宏(以下、真宏)〕 私は静岡県焼津の出身ですが、父親が造船会社で船の設計をしていました。工場を見せられてくれたり、船ができると試運転に連れて行ってもらったのですが、船が港から出て町が見えなくなり、360度全てが水平線みたいな世界を、船だけがエンジンの音を出しながら動いていくという、均衡した世界に感動した

ことを覚えていています。それは一つの完全な世界でした。ところが何度か試運転に連れて行ってももううち、船は完璧に美しいのに、港に帰る時に見えてくる町の風景はあまり美しくないと感じたのが、たぶん建築家になるうと思っただけかと思うと、生ではありませんでしたから(笑)、大学受

験の頃は、なんとなく自分の関心ごとが建築に向かっているぐらいの感覚で父と同じ機械科なども受け、心が決まらない状態で建築学科に入りました。
原田麻魚(以下、麻魚) 父はパラボラアテナの設計をやっていました。一級建築士でもありましたから、建築の設計もできたと思います。私は小さい頃からモノづくりが大好きで、父は私の名前を彫ったトンカチやノコギリなどの道具を与えてくれ、モノを作ることで男の子より上手いみたいにな子供でした。しかし、父は早く亡くなってしまい、建築の話もし

たことがありません。でも、逆に早く亡くなったことによって、私の中で建築というものが熟成したと言いますか、自らの目標をもつことができました。
土木的なものが好きで、横浜港にレインボーブリッジができたときは電車で行って、スケッチをして、どうすればあれを作れるか、自分で絵に描けるようになるのかと。当時は道筋もわかりませんが、高校の頃は欲もなく、近いからとちょっと変わった単位制の高校に行っていたのですが、そこでは成績が良いほうだったので推薦で選べた芝浦工大の建築学科に進んだわけです。



原田 真宏

Masahiro HARADA



原田 麻魚

Mao HARADA

COM Vol.33



CONTENTS

Front Line ■ 建築家インタビュー 原田 真宏 + 原田 麻魚	2
News Topics ■ ニューストピックス パーキングの価値を高める バリューアップリブレース Webサイト全面リニューアルのお知らせ	7
Arrangement ■ 納入事例 ダイヤゲート池袋	8
Arrangement ■ 納入事例 読売並木通りビル	10
Arrangement ■ 納入事例 資生堂グローバル イノベーションセンター	12
Arrangement ■ 納入事例 日本生命日本橋ビル	14
Replace ■ リブレース事例 天神ビックタワー	15
Information ■ COMプレゼント	16

建築が具体性から逃げていると感じた学生時代

真宏 建築デザインの世界が競争の激しい世界なのは勉強を始めてすぐにわかりましたが、そこにあえて入って行こうと思っただけ、当時の建築の世界への怒りのような気持ちがあったからかもしれません。

大学入学は91年ですが、当時の建築はすごく抽象的な世界で、建築の本体は理念であり、実際の建築物はその影である。私は田舎育ちですから、自分の周りの自然と社会の配分という自然6社会4ぐらい。自然は具体物のネットワークですし、その自然がうまく回っていることが大事な田舎から東京に出てきて勉強を始めたから、建築が理念という人文学のほうに偏って、一方の自然科学的な側面をないがしろにしている様に思えたのです。そこで、これをなんとか正さなければいけないという使命感を勝手に感じていたわけです。



XXXX house / 焼津の陶芸小屋

ところが、学部時代はワンダーフォーゲル部の副部長で、休みはずっと山に登っていてあまり勉強していません(笑)。大学院に進んでそろそろ勉強を始めるかという時、芝浦工大と南

カリフォルニア工大の合同交換留学がスイスであり、そこにチューターとして岡部憲明さんが来られていました。岡部さんはレンゾ・ピアノのパートナーで、関西国際空港の共同設計者だった方ですが、建築の本質は建築家の理念ではなく、人々が生活する具体の世界をいかに豊かにできるのかという、ヨーロッパの本流である建築の文化をもっていう方でした。そのような文化と出会えたこと、それを信じている人と会えたことが一つの大き

セルフビルドに没頭し

子供の頃の感覚を取り戻す

麻魚 大学に入り3年生の時、一度大きくつまづきました。それまで設計でも良い成績を頂いていたのですが、突然、描けなくなる時期がありました。きっかけは建築学科の友達が行ったイタリア旅行でカルロ・スカルパの建築を見たことです。スカルパの美術館にあった木と鉄を組み合わせた彫刻を載せる台を見たのですが、木のこと鉄のこと、鉄と鉄を溶接して木をどう付けるかという作り方を全部わかってないと、こんな格好の良いものは作れないと気づいてしまったのです。それまで大学で建築とは「空間」であるという教育を受けていて、私自身そうだと思う、すごく興味をもって勉強していたのですが、自分には何か足りない。

設計集団に行ったのです。全国から学生が集まるワークキャンプがあったのですが、そこでやったのが自力建設、つまりセルフビルドでした。山の中に行き、枝を落とされた木を見つけて、その木がなかったであろう姿を小屋にしたりする中で、小学生の時に父からもらったノコギリとトンカチが手に戻ってくるような感覚を取り戻していききました。

そこで、その足りないものを求めて象

3年、4年はもちろん大学院にも研究室にも在籍していたのですが、たまに行くのと、「お前、いま何してるんだ」と先生に聞かれ、象でこんな建物を担当していますと答える感じでしたが、自分のやりたいことと全く分離せずに、建築の道への入り口をくぐれました。

スペインで建築は抽象的なゲームではないことを確信

真宏 大学院1年の時、隈研吾さんの事務所と呼ばれてお手伝いをしました。その後、少しブランクがあったのですが、その年度の春休みに隈さんから電話があり、原田君就職どうしたのと聞かれ、何も考えてませんと言ったら、じゃあ明日面接においでと。翌日、ポートフォリオを用意していなかったでそれまでの課題で作ったパネルをごっそり持っていったら明日から来いと(笑)。大学院はまだ1年あったのですが、学校に通いながら時々おいでよと言って頂いて、隈さんの事務所に入れたのです。

スペインでは、ホセ・アントニオ&エリクス・トレースという、建築自体はもちろんだ、まちづくりや、歴史的な建築物を現代に蘇らせる名手である建築家のところ、1年少し所属させてもらいました。そこで思ったのは、建築は抽象性に終始するゲームではなく、抽象的な手法を使って最終的に具体の世界にアウトプットする活動であるということ。日本でずっと抱いていた思いが、亜流でなく主流として評価されたような経験でした。

予算150万円で作った独立初のデビュー作

真宏 日本に帰ってきて、すぐにデビューして仕事をしようという気もありましたが、1年半程日本を離れていると客筋も離れてますし、やはり建築家は一番最初の作品が難しい。最初は信用も実績もありませんから、実家とか、親族の会社の建物等から始めるものですが、私には、そういう背景がありません。たまたま父が商売用のカローラの商用車を買うのをやめるから、その予算の150万円を庭に趣味の陶芸のアトリエを作ってくれと。

で、セルフビルドで作ったのが「XXXX House」です。でも、それだけでは生きに行けませんから午前中は自分の仕事を、2時に出社するような形で、磯崎新さんの事務所にお世話になっていました。麻魚 私のほうは、大学を卒業した年にはもう結婚してましたから、このセルフビルドが最初の仕事になりました。

真宏 これですDレレビューの鹿島賞を頂いたのですが、しかし、小説家や画家もそうですが、建築家もデビュー作に全部が詰まっている。将来が詰まっていると言われますよね。だから、デビュー作が150万円だからと、当時は各方面から心配されました(笑)。

麻魚 でも、そんなこともなく、二作目は10倍、三作目も更にその10倍の予算という風に仕事に恵まれて、今に至っています。

JIA日本建築大賞を受賞した

「道の駅ましろ」

真宏 「道の駅ましろ」ではこの土地らしい建築が欲しいとの要望が町の側からあり、これは町の人達の暮らしや、風土そのものが建築になったみたいなのを理想としていた私たちの思いそのものでもあ

りました。若い町長さんで、本当に街の人たちが自分たちの思いを託せるような建物を作らなければならぬということ、十数年ぶりにオープンコンペを実施して、私たちも参加し選んでくれたわけです。



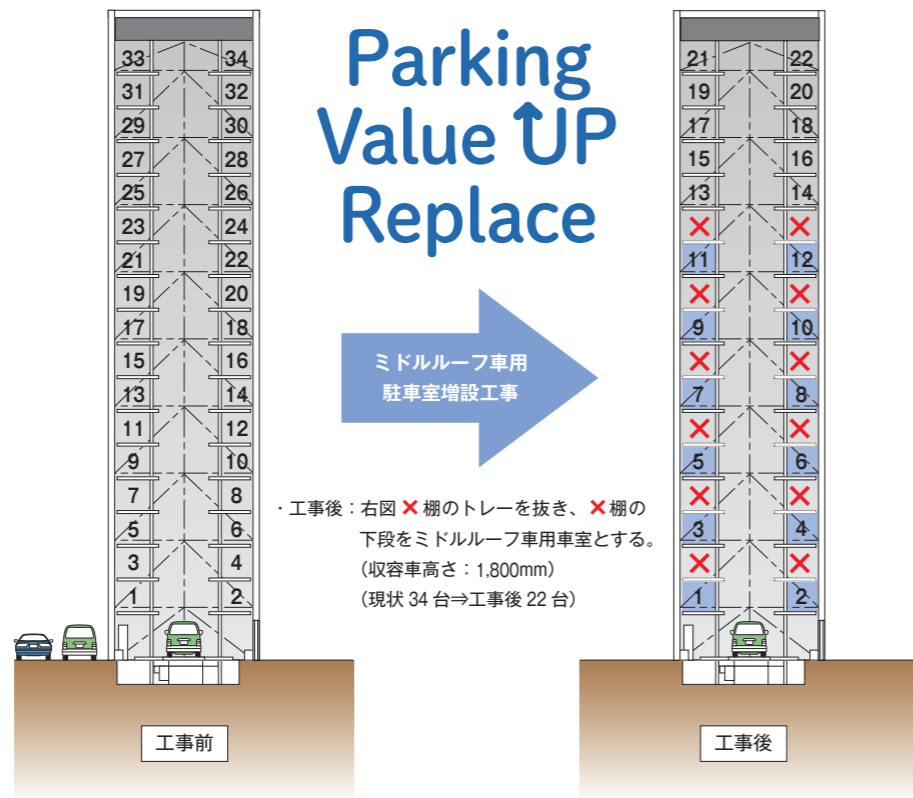
道の駅ましろ

3年仕事をして公共のコンペも取るようになり、スタッフとして一番使える時期に、隈さんにスペインで働いてみたいので行かせてくれとお願したところ、スペイン行きを応援してもらえませんでした。いま考えると、隈さんに足を向けて寝られません(笑)。

パーキングの価値を高めるバリューアップリプレイス

弊社では現在、老朽化した機械式駐車設備の価値を高めるバリューアップリプレイスを推進しています。具体的には、地上エレベーター方式(パレット式)のリプレイスを実施するケースでは、格納棚を撤去して収容車高さを確保する効率的な工事のため、短納期・低コストで車高のサイズアップと最新のセンサー等の設備への入れ替えが可能です。例えば、12台の台数減でミドルーフ車の格納を可能にする工事の場合にも、わずか1週間程度で施工が完了します。まずは下記までお気軽にお問い合わせください。

日精株式会社メンテナンス営業部
03-3844-6290
replace@nissei.co.jp



Webサイト全面リニューアルのお知らせ



この度、弊社Webサイトをリニューアルオープンいたしました。今回のリニューアルでは、皆さまがより利用しやすく、分かりやすいサイトとなるよう、デザインと構成を全面的に刷新しました。また、資料や動画などのさらなる充実に加え、スマホサイズにも対応したことで外出先でもスムーズに情報を入手いただけます。今後も随時コンテンツを追加していきますので、是非この機会にご覧ください。



<https://www.nissei.co.jp/parking/>

建築が時間と空間を超えるために必要なのは

建築というものは、物と形でできていますが、物としては益子には陶土があり、形として山がある。益子は陶芸で有名ですが、陶芸では風景の中で形と物のエコシステムが成り立っています。これに建築も加って、物と形を全部風景の中から

取り出すということをやろうと考えました。町のアイデンティティを建築で形にすることで、町の人達は益子はこういう風土なんだ、自分達はそれとこう関わって生きているんだと良くわかるようになってきたことが成功だったと思います。

真宏 当然ですが、世の中の仕組みは建築と切っても切り離せないところがあります。なぜなら世の中の仕組み、社会からのオーダーが建築を作る動機ですから。でも、社会からの、一方通行のオーダーだけで作るのでは資産となるような建築はできません。社会からのオーダーに自然からのオーダーでフィードバックをかけることが必要です。ところが、社会の合理性と自然の合理性が敵対してしまったのが20世紀です。**麻魚** それが、環境とかエネルギーの問題、社会の格差の問題などを作り出していますよね。でもそういった問題に対する危機感も、ある程度の感度があればどう舵を切って行けば良いか気がつける状況になっています。それに気づいた若い経営者や自治体の長も増えてきていますと感じます。

真宏 いま日本はあまり良くない状況ですが、社会の構造自体が変わる前夜時期なのだと思います。私たちが大事にしているのは、社会の合理性を動機としながら、最終的なアウトプットを自然の合理性の内に位置づけることです。なぜかと言うと、社会の合理性はある時点では成立しますが、10年後はわかりません。経済状況も変わるかもしれないし、文化自体も変わるかもしれない。それだけに応えているのでは時間の経過を生き抜かず、将来は不要なものになるでしょう。また、国が違えば文化や社会の状況は違います。しかし自然の現象は多様でもその原理は同じです。ですから、自然の中での存在としての合理性があれば国家社会の閉鎖性を超えた価値を持ち続けられます。社会だけでなく、自然の合理性を担保すること、時間と空間を超えていける建物を実現すること。それが私たちの強みだと思います。



将来の収容台数減少にも対応できるように

機械式駐車場は、ある時点においてクルマを効率的に数多く収容するというポイントに対してのみ応えていますよね。ですから、たとえばマンションをリノベーションして、一戸あたりの面積を倍にして、入居する家族の数が半分になった場合、

その機械式駐車場がどうなるのかは気になります。つまり時間経過に伴う変化への適応性ですね。法的にはいろいろな制約があるとは思いますが、駐車システムの適応変化の可能性については、すごく気になるところです。(原田麻魚氏)



PROFILE

原田 真宏 Masahiro HARADA
1973年、静岡県生まれ。99年、芝浦工業大学大学院建設工学専攻修了。97年、隈研吾建築都市設計事務所。2001年、文化庁芸術家派遣制度でJose Antonio & Elias Torres Architectsに所属。2002年、磯崎新アトリエ。2003年、原田麻魚と共に「MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO」設立。2007年、芝浦工業大学 工学部建築学科 准教授。2014年、芝浦工業大学 工学部建築学科 教授。2016年、芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授。

原田 麻魚 Mao HARADA
1976年、神奈川県生まれ。99年、芝浦工業大学建築学科卒業。2000年、建築都市ワークショップ所属。2003年、原田真宏と共に「MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO」設立。2013年、東北大学 工学部建築・社会環境工学科 非常勤講師。2019年、東京大学 工学部建築学科 非常勤講師。

主な受賞 2003年、SD Review 2003：グランプリ(鹿島賞)XXXX house/「焼津の陶芸小屋」。2017年、JIA日本建築大賞「道の駅まじこ」。グッドデザイン賞：グッドデザイン賞「知立の寺子屋」。